

## 【深沢紅子展によせて】

ここ、阿南市より国道 55 から南西 195 号へ車で向かいます。(徳島市からは 2 時間程)

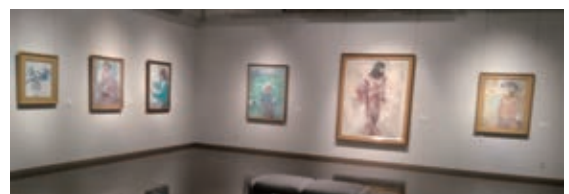
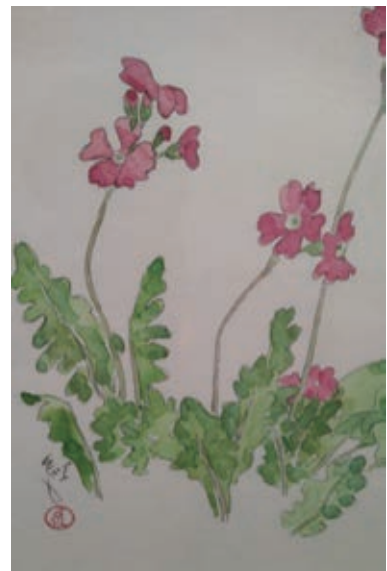
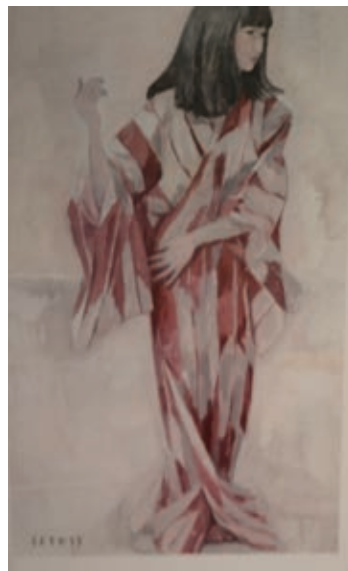
遠くして剣山。初夏の山、紫陽花や緑、鷺敷里風景、初夏の鮮やかな山間を那賀川上流に沿って車は走ります。観光スポットもみじ川温泉、鎌瀬橋、相生森林文化公園あいあいランド、すぐそこは相生森林美術館（徳島県那賀郡那賀町横石大板 348）です。

2022・4月23日～6月12日 春の企画展「深沢紅子～野の花によせて～」が開催されました。

盛岡市生まれ東京の女子美術学校を卒業、女流画家協会の創立者でもあり、夫、深沢省三（洋画家）と共に戦前戦後を通じ作品を描き続ける一方、絵画指導、児童教育にも携わりました。女性洋画家として活躍しました。(1903～93年)

今回の展示は深沢紅子野の花美術館（長野県、軽井沢）が所蔵する作品、春から夏へ、夏から秋へ他～四季の12ヶ月、花や野草、桜草、海老殻いちご、山椿、あけび（木通）、等人知れず咲く花の姿水彩画を中心に、1959年「立てる少女」100号油絵は代表作（独立行政法人国立美術館蔵）等、人物、静物画他80点が集合展示されました。また著名人からの手紙、葉書、年賀（三岸節子、川端康成、武井武雄～）他、自筆交流の展示。婦人友（1993年1月号から12月号迄）表紙絵掲載ほか数多く鑑賞が楽しめます。山あいの自然に囲まれ美術館には大勢の観覧者の訪れがうかがえます。自然は美しい、野の花も姿は美しい。今も昔も変わることなく日常の風景、見慣れた植物、野草の名も知ることに楽しみ。植物を観つめ、草花のスケッチは、はかり知れない精神の絵画です。描く妙味は止まらない、人の奥底に潜む自然への深い造形を心豊かに震わせていただきました。

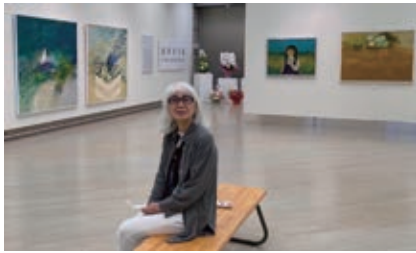
現地取材 委員 渡辺記世



# 個展紹介

## 【岩井洋子展】

2022年4月12日～4月17日  
目黒区美術館 区民ギャラリー



昨年八月まだまだコロナ禍で「何処までつづくぬかる道」と思いつつ、目黒美術館に個展の申込みに向いました。

80歳を目前に、何が私の背中を押したのでしょうか・・・？

会期が決まってからは何度も区民ギャラリーへ通い、会場の展示イメージを模索しました。遠い昔、学生の頃バスケットボールに夢中で走り回っていた体育館のような広さが気に入りました。密にならず良しです。現在手元に残っているS100号の作品7点を中心に、近作F130号2点、他にしまいでいた懐かしい作品達。目黒に引越して10年、ラジオ体操で知り合った近所さん達に是非見て頂きたいと思いました。ご高齢の方々です。色々な分野でキャリアを積み重ねていらして今尚お元気。近いので、暇なのでと何度も来て絵を見て会話を楽しみ、私も少しは美術館の敷居を下げることに貢献です。絵は絵の前に、見てくださる方が立たなければ何も伝わりません。難しいです。なかなか大変なことです。でも此処まで絵を描いてこれたのは同じように頑張っている絵の仲間たちがいて、そして家族の協力があったこそです。感謝しています。

な分野でキャリアを積み重ねていらして今尚お元気。近いので、暇なのでと何度も来て絵を見て会話を楽しみ、私も少しは美術館の敷居を下げることに貢献です。絵は絵の前に、見てくださる方が立たなければ何も伝わりません。難しいです。なかなか大変なことです。でも此処まで絵を描いてこれたのは同じように頑張っている絵の仲間たちがいて、そして家族の協力があったこそです。感謝しています。

## 【関口聖子展】

2022年6月1日～6月6日  
栃木県総合文化センター

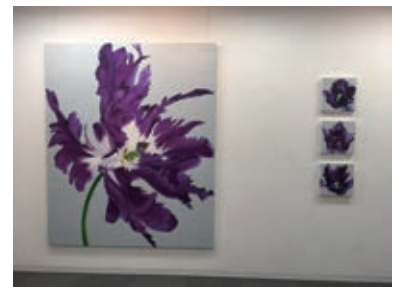
この度の個展は北関東独立展と同時開催で行われました。200号～100号のみ36点の出品でした。私はたてに切り込んだ自然に興味があり、その都度自然と自分との間を描いています。島田紀夫先生（元山梨美術館、ブリジストン美術館館長）のおっしゃるように、抽象と具象の間、自然と人工の間と言った20世紀初頭の美術の問題を含んだ作品でした。これからは新たな展開を試みよう、楽しみにしているところです。



## 【広瀬晴美 個展】

2022年7月4日（月）～9日（土）  
うしお画廊 銀座

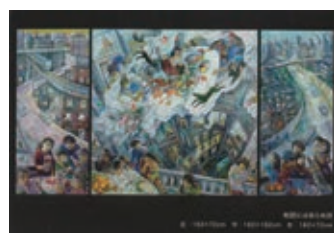
3年ぶりの個展は、コロナ禍で延期になったグループ展との同時期開催になりました。うしお画廊の個展会場には、ここ数年取り組んでいる紫の花の油彩画を中心に、パステルでのドローイングなど15点を展示しました。コロナ禍だからこそ、絵画を見る時間が人間にとって大切な時間であることを来場された皆さんに教えられた1週間でした。



## 【街への思い 遠藤彰子展】

2022年10月12日（水）～17日（月）  
日本橋三越本店本館6階美術特選画廊

刻ふりつむ一過去の記憶を蘇らせたり、今生きている実感をイメージしたものが、私の絵です。楽しさや恐れ、不思議さや驚き、それらが表現へと駆りたて、描いている時間が私の心の語りです。一点一点は独立した作品ですが、全てが一つの作品なのかもしれません。



## 【遠藤彰子展「つくるたのしみ」】

2022年10月10日（月・祝）～16日（日）  
ギャラリームサシ 銀座



女流画家協会の研究会は、第22回展（昭和43年）に作品制作の研鑽の場として開設され活動を始めました。活動内容は、人物のクロッキー・デッサン・ムービングなどの描写活動、そして研究会員の作品エスキースや写真をもとにして、作家経験の豊富な講師の先生方による講評が受けられます。会場は東京都美術館2階のスタジオです。2時間半くらいの研究会ですので充実した実りの多い成果が得られます。

遠方の方が参加されるなど、皆さん熱心で和気あいあいとした楽しい勉強会ですので、ぜひ参加されることをお勧めいたします。コロナ対策も緩和された10月は多くの方々が参加されました。

2023年1月からは、委員の黒沢裕子と鈴木多美子が研究会を担当させていただきますので、よろしくお願いいたします。（黒沢裕子記）



毎月1回金曜日に実施  
※都合により、他の曜日になることもあります。

女流画家協会ブログでも  
紹介しています！



## 2023年 第76回女流画家協会展のお知らせ

会期 6月7日(水) ▶ 13日(火) 東京都美術館

搬入日 5月25日(木) 10:00~16:00 1日限り

女流画家協会ホームページ [joryugakakyokai.com](http://joryugakakyokai.com)



### ～編集後記～

コロナと共存する社会になりつつある中、75回記念展が無事に終って良かったです。来年はどんな年になるか？ 明るい年になる事を願うばかりです。 H

### 女流画家協会 会報 Vol.13-2022.12

発行日：2022年12月15日

発行：女流画家協会

編集：堀岡正子・平木久代

### 女流画家協会 事務所

〒142-0043

東京都品川区二葉4-14-10

TEL：03-3784-9577 (FAXなし)